

Funaiensis 豊後府内(大友氏城下)

Yuenis 山布(豊後)

Arimensis 有馬(肥前)

Nagsachensis 長崎(同)

Omurensis 大村(同)

Amacusana 天草(肥後)

Usoquensis 臼杵(豊後)

Noquensis 延岡(日向)

Anzuchiamensis 安土(近江)

Tacasquensis 高槻(攝津)

即ちこの地圖はかうした教會地をしるし、有馬と安土には二十六人の若い貴族がゐるとのべであるのも面白う。

行基圖以前のものだから國名は確實ではないが Meaco 京都 Osagua 大阪 Sacaium 堺等の地名が出てゐる近畿の中で Coya 高野と Negrn 根來の二つがあるのも面白う。これは Paolo Furlani 1574年の地圖にも出てゐる地名であるが、恐らく天主教から見た異教徒の中心と見たためであるであらう。根來に Negrn Academ と註記してゐるのは殊更に興味をひく、九州地

方では Facata 博多 Funay 府内 Ximabara 島原等の地名や肥後筑後肥前豊後等の國名がよめる、地圖の形のまづいのは別にして我等は本圖から天主教の分布を學びうらと思ふので有力な史料としてこゝにこれを紹介するのである。

新著紹介

○昭和十二年の大阪市政 大阪市役所

本邦經濟の中心として大阪、生産と集散との都市である大阪、貨物の出入年四千七百萬噸、七十五億圓に達する大阪の事情をしるに簡單なパンフレットとして市役所の出した本冊のごときはよい金であると思ふ。百貨店の商品券だけでも一年に約九百萬圓だといふが、貿易では輸出年十二億圓、六百五十二萬噸に達し、入超三百七萬噸即ち原料品で重いことを語り、價格で七千三百萬圓の出超は製產品が高くなつてゐることを語り、輸出で注目すべきは綿織物二億六千萬圓を主とし綿糸、毛糸、毛織物、人絹、人絹織物を加算して三億五千萬圓となるから輸出の五六％は繊維工業地であることを語るのである、其他金屬工業、機械工業、化學工業、紡績工業等いづれも全國第一をしめる、かくて大阪市はいろ／＼の方面で改善されてゆくのであるが尿管が一日間に一萬六千石も排出されるので、從來の例をやめて、十二年度に八十二萬五千

固を投じ低廉な料金で衛生組合其他の汲取にかゝる毎日約八千石の屎尿處分の委託をうけ、市は市内に數ヶ所の屎尿集荷場をつくり、委託者がこゝに搬入した屎尿を市の手で完全に輸送し、肥料として農村に配給する、又は衛生的處理をするといふことである。一は河水淨化のために、一は病氣蔓延の防止のために、かうしたことは都市では喫緊の問題である。目下將來五百萬人の人口に對する、下水の處理も考究され五千八百五十萬圓の巨費で、目下下水道と其下水の最後の處理淨化がなされんとしてゐる。我等は一日も早くかうした事業が完成して健康大阪の出現を望むこと切なりである。(藤田)

○廣東十三行考

梁嘉彬著 國立編譯館 定價三元

著者は國立清華大學史學科の出身で、廣東は外國との交渉で唐時以來、香漢代から南洋、西洋への交通の中心であり、明の洪武二年には倭寇もこゝに出現した程、海外交通の要點であるが、康熙二十五年以後こゝに居住する外人と交渉する商館に勢力が出來たので、銀錢堆滿十三行などいふ句が廣州竹枝詞に出る。蓋し清朝で設關の初、牙行をして之を主らしめた、明代の習に出たもので命じて十三行といつたとある。十三行は政府の代表で外人の請求はすべてこの十三行をへななくてはならない、中國の商人にして直接外人との貿易を許さぬといふ慣例が出來たから、勿論中國人に對しても不利であり、外人に對しても不利な制度であつた。鴉片戰爭でこの制度はなくなつたけれども、やはり支那には今日もコンプラドルといふ制度がある、思ふにかうした制度の出來は古く唐代から鹽鐵市舶の利を知つた支那人、ことに廣東では明代に地

方の豪族大資本家が集團して鹽課提舉にあたり、やがて市舶の事を兼ねて其利を獨占したのである、いづれにしても本書はさうした十三行の發達と變遷を論じたもので、支那の經濟事情を知るには面白い研究であると思ふ。(藤田)

雜 報

○アデン港の位置

アラビヤ半島の南端に位し、アラビヤ諸國、英國、佛國、伊太利、ソマリランド地方は地理的に接近してゐるのみでなく、この港は東西交通の要點で明代鄭和の遠征がこゝを訪れた位であつて、古來から東亞の要地である。かくて紅海沿岸で頗る有利の地位をしめる上に今は自由港であるから金融機構も整ひ、港灣設備もとゞつてゐるのでアラビヤ諸國紅海沿岸の地方の貿易の中心となり其貿易の大半即ちエーメン、ヘヂヤス、オマン等の貿易のすべてを握つてゐる。

本年四月から英國植民地直轄のクラウン・コロニーとなり印度政府から分離したが住民はアラブ、印度人、ペルシヤ人英國人で、合計僅に三萬五千内外である。水のない土地だから、あまり多くの人口は養へないのである、けれども紅海では第一の大港で寄港船舶は毎年千七、八百隻の多きに上り其輸出入の貿易は一億留比を下らない、このうちでアデン自體の貿易は總額の約二割に止まる、それは船舶關係品である油。

(五五頁へ續く)